

書塾の仲間たち

第 230 回

れぶん 札文書道会（北海道札文町）



●書塾からひとこと●

日本最北の街、稚内市から西に六十キロ、フェリーで約二時間の位置に、礼文島があります。この島で、札文書道会は、八年前に活動を始めました。Uターンをした私が、北海道教育大学で書道を専攻していたことから、書道を教えてほしいという声を受けて、四人の生徒で出発しました。現在は日本海に浮かぶ利尻富士を仰ぐ香深教室と、北海道本土を望む船泊教室の一教室で、幼児から大人まで約四十名が書を学んでいます。

昨年、新型コロナの影響により、出品していた北海道内の学生書道展がすべて中止になりました。そこで北海道外の展覧会を調べていたところ、日本武道館の書道事業を知りました。月刊「書写書道」の見本誌とホームページを拝見し、素晴らしいお手本と課題の内容に惹かれ、昨年十月より小学生以下と希望する大人が出品しています。出品当初から何度も写真版に掲載していただき、皆大変喜び刺激を受けています。

競書への出品の他、島内の展示や、各種展覧会への出品を積極的に行っています。島外の展覧会では、どんな環境にいても、臆せず挑戦する心を養ってほしいと願い、出品しています。島内では、稚内信用金庫礼文支店での展示と、町の文化祭美術展の年二回作品を発表しており、練習の成果を身近な皆様に見ていただく貴重な機会となっています。

会の活動にご理解や応援をしてくださる皆様と行政のお力添えにより、この地の文化に「書」の種を蒔くことができました。少子高齢化が進む過疎地では、指導者が不在になると文化の灯が消えてしまう事があります。時代の種が枯れぬよう、後に続く人を育てることが、私の使命だと思っています。

この島のように、美しく雄大な表現を目指して、今後も楽しく稽古に励んでもらえるよう、一層頑張っていこうと思っています。

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。
礼文書道会 菅原 巨濤

きれいな字で本のポップを書きたい

小学2年から書道教室に通うようになりました。きっかけは、「字がきれいに書けるようになりたいな」と思ったことです。その思いがあたからこそ、6年間以上続けられたのだと思います。なかなか上手に書けなくて嫌になった時期もありましたが、友達とお互いに励まし合いながら真剣に取り組むことができました。

最初のころは、書星会に出しても金賞でしたが、努力を積み重ねたことで、小学6年のとき、ようやく上位賞の書星会賞をいたしました。初めて大きな賞をいただいたときは、努力を続けてよかったと思い、嬉しかったです。

今は、中学2年になり、行書に取り組んでいます。行書はとても難しく、初めは上手に書けませんでしたが、筆の使い方が分かるようになり、だんだん書けるようになりました。ほかにも、友人にアドバイスできたときは、今まで教室で学んだことが役に立っていることを実感しました。書道を通じていろいろな人たちとの交流もでき、嬉しく思います。

私の夢は書店員になることです。書店員になると本の宣伝のためのポップを書く機会があると思うので、見た人がびっくりするくらいきれいな字でポップを書けるよう、これからも書道を頑張っていきたいです。また、日本武道館の書初め大会に参加したことが、今でも思い出に残っているので、新型コロナウィルス感染症が収まり、またお正月に仲間たちと書初め大会に参加することを楽しみにしています。

小学2年から書道教室に通うようになりました。きっかけは、「字がきれいに書けるようになりたいな」と思ったことです。その思いがあたからこそ、6年間以上続けられたのだと思います。なかなか上手に書けなくて嫌になった時期もありましたが、友達とお互いに励まし合いながら真剣に取り組むことができました。

最初のころは、書星会に出しても金賞でしたが、努力を積み重ねたことで、小学6年のとき、ようやく上位賞の書星会賞をいたしました。初めて大きな賞をいただいたときは、努力を続けてよかったと思い、嬉しかったです。

今は、中学2年になり、行書に取り組んでいます。行書はとても難しく、初めは上手に書けませんでしたが、筆の使い方が分かるようになり、だんだん書けるようになりました。ほかにも、友人にアドバイスできたときは、今まで教室で学んだことが役に立っていることを実感しました。書道を通じていろいろな人たちとの交流もでき、嬉しく思います。

私の夢は書店員になることです。書店員になると本の宣伝のためのポップを書く機会があると思うので、見た人がびっくりするくらいきれいな字でポップを書けるよう、これからも書道を頑張っていきたいです。また、日本武道館の書初め大会に参加したことが、今でも思い出に残っているので、新型コロナウィルス感染症が収まり、またお正月に仲間たちと書初め大会に参加することを楽しみにしています。

中一 須藤 南羽翠

千葉県柏市立松葉中学校二年 須藤 南羽翠



私と書写書道 第230回

自分の字に自信を持つて書きたい

私は、小学四年のとき、知り合いの方にすすめられて、書道教室に通いました。

書道を習っていて良かったことは、「きれいに書く」ことを意識するようになったことです。学校でも、普段書く時でも、「ていねいに書こう」と思ってながら字を書くようになりました。そして、学校の席書コンクールでは「平和」という字を書いて賞状をいただきました。「平」という字の最後の一画がむずかしかったけれど、先生のアドバイスどおり書いたらきれいになりました。練習をがんばったかいがあったと思いました。

また、家族や先生から「すごいね」「上手だね」「次もがんばってね」とほめられ、応援してもらつたことや、月刊「書写書道」の写真版に毛筆と硬筆の作品がのつたことが、とてもうれしかったです。

通っている書道教室では、作品出品のため色を使つた作品に挑戦していました。自分のなつとくできる作品ができてうれしかったです。

今、特にがんばっているのは毛筆です。漢字はバランスが取りにくく、たくさん練習していますが、先生が私の作品を見て「良くなつたね」と言ってくださると、とてもうれしくなります。

これからも自分の字に自信を持つて、一生懸命書き、そして、楽しく書

静岡県裾野市立南小学校六年 金子 優奈

